

大阪湾フェニックスセンター助成

三田を持って三田と改む」とあり、これが三田の由来という。

一乗寺跡 かつて一乗池があった、このあたりはよく切れる「正宗堤」があり、犠牲者多くでてこれを弔うため一乗寺が建立された。今は一乗寺公園となって、一乗寺地藏尊が祀られている。

車瀬橋 三田市で最も古い橋、18世紀末に描かれた「摂津名所図会」に「車瀬の蜩見」がある。「車瀬」この辺りで車の両輪のように瀬があったからという。今の橋は昭和59年架橋。

三田川 江戸時代武庫川は三田川と呼ばれていた。

礼場の辻 江戸時代三田の中心地。三田町道路元標があり、丹波街道がここで曲がる。

三田ほんまち交流館縁 三田本町の旧中西度量衡店。現在は市民文化活動の拠点。

陶祖内神屋惣兵衛旧宅 内神屋は米屋で豪商。家業以外に陶器窯元となり三輪山に窯を築き陶工内田忠兵とともに衛青磁の研究を始め、京都の名工欽古堂亀祐を招き中国青磁を凌駕する作品を完成させた。ほんまち交流館の向かいにある。

京口 古くから多くの街道が交差する交通の要衝であった。大きな道標が残っている。

横山峠 有野川、有馬川と三田盆地を隔てる丹波街道、有馬街道などの峠であった。現在は国道176号線の開削により昔の面影は残っていない。

長尾川 神戸市北区長尾町から流れる。すぐ有馬川に合流する。

国鉄有馬線 大正4(1815)年4月、国鉄三田駅と有馬温泉を結ぶ私設軽便鉄道として開業、即日鉄道院が借り受け運営した。大正8(1819)年国鉄に買収された。昭和18(1943)年清掃に関係ない不要不急路線として廃止され、資材は篠山線に転用された。

神鉄道場駅 昭和3(1928)年神戸電鉄三田線開通時に道場川原駅として開業。平成3(1991)年神鉄道場駅と改称。

山脇延吉翁の碑 神鉄道場駅の線路沿いにある。山脇氏は明治8(1875)年道場村塩田に生まれる。県議会議員、県議会議長を歴任。その間に国道2号線の完成、武庫川の改修を政府に陳情のほか農業の振興に尽くされた。大正15年神戸有馬電気鉄道(株、現神戸電鉄)を設立、昭和3年神戸、有馬に神有電車が開通し、ついで有馬口から三田まで開通させた。

松原城址(タンポポ城址) 南北朝時代赤松氏が築城したという。道場城ともいわれ、有野川と有馬川の合流点の要害の地にあり、天正年間三木別所氏の一族松原氏が支配したが天正7(1579)年織田氏に攻められ落城した。松原氏の姫が鼓が好きで、よく城中から「タン、ポン、ポン」と鼓の音が響いていた。城下の人は城を「タンポポ城」と呼ぶようになった。

国鉄有馬線跡 神鉄道場駅前の城山橋の下の掘割は国鉄有馬線の廃線跡。近くの有野川に橋脚が残る。

有野川 六甲山系と金剛童子山系の囲まれて流れる有馬川の支流。

道場河原(道場川原) もと大谷派本願寺下常楽寺の子爵了善がこの地に道場を建て近くに川原があったことから道場河原と呼ばれるようになった。この地は有馬川有野川が合流する地区で人・物の集積場となっていた。丹波からの丹波街道、播磨方面への播磨道の分岐でもあったことから江戸時代宿場とされて賑わった。

道場村道路元標 道場河原宿の郵便局北50mに道場村道路元標がある。

三田周辺の丹波街道を歩く

第77回武庫川エコハイク
20130914 エコグループ・武庫川

武庫川 全長65km、流域面積500km²。篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の7市1町を流域に持ち全国10位の人口・資産を抱える2級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の西側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して2年半にわたり協議した結果、平成22(2010)年10月、20年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR新三田駅 昭和61(1986)年福知山線の複線電化とともに新設された。北摂三田ニュータウンの人口増に対応したもの、三田駅と同様の乗客数がある。

大池川 有馬富士周辺から福島大池を経て流下し新三田駅北側で武庫川に合流する。

福島 稲荷神社の七福神にちなんだ地名といわれる。お旅所は稲荷神社の祭礼用。

丹波街道 丹波篠山から古市宿、藍本町宿、三田を経て道場川原宿・生瀬宿へ通ずる古道。酒作りの杜氏が西宮などの灘五郷に通った道。

お旅所 福島稲荷神社のお旅所。御輿の神幸するときの仮の奉安所。

福島稲荷神社 福島の産土神。元は八幡社他5社があり、七福神として祀られており福島の地名の由来となったといわれるが、今は稲荷社を残すのみ。

行基の足跡 この地区には奈良時代の僧行基の武庫川の治水の事跡が残されている。福島大池、行基堂、松山堤など。「川除(かわよけ)」の地名はこれから出たものか。

三輪 南北朝時代に奈良三輪神社を勧請されたことに因んだ地名。

大歳神社 鎌倉時代紀州大原家がこの地に荘園を築き、鎮守として文永年間(13世紀後半)熊野より大歳神社を勧請、その後戦火に焼かれたが永禄3(1560)年本殿を再興した。県指定重要文化財。

川除の井戸 16世紀半ば赤松氏に追われた松山氏がこの井戸に隠れ難を逃れたが、その時井戸の中から黄金の仏像を拾い上げたことから以後松山氏は「福井」姓に改姓したという。

来迎寺(らいこうじ) 天正元(1573)年真言宗の寺として開基。安永5(1776)年曹洞宗に改宗。聖徳太子の大化の改新で定められた郡ごとに設置が定められた「来迎寺」のひとつ。裏山は茶臼山といい、南北朝時代松永弾正の山城があったが康安元(1361)年戦乱で落城。

大井元の水 三輪明神の宮水。丹波街道に面してある湧き水。大きな水場がある。かつては飲料水として利用されていた。

三輪神社 南北朝時代松永弾正が奈良大神(おおみわ)神社を勧請されたという。

三輪村道路元標 国道176号線を渡った所に石鳥居があり、その下に旧三輪村の道路元標がある。大正年代に全国に一齐に作られた。

お旅所 三輪明神のお旅所。

三田 古代寺院金心寺は壮大な寺院であったことがわかっている。昭和7(1932)年の発掘調査の時、弥勒菩薩の胎内に「この地一帯を松山の庄とす。これを金心寺恩田、悲田、恵田の